



さくだ
左下り観音堂

左下り観音堂は建立以来1000年以上と伝えられています。山の中腹にある大岩を切り開いて建てられた見事な三層閣の懸け造りのお堂です。会津三十三観音第21番札所になっており、別名「くびなし観音」とも言われ、県の重要文化財に指定されています。

data
会津美里町大石字東左下り173町道23号より山道を徒歩30分

よりみち
コラム

手塚治虫の足跡
佳作「夜明け城」と向羽黒山城

漫画の神様と謳われた手塚治虫氏の綺羅星のごとき作品群の中に『夜明け城』*という佳作がある。この作の着想を得たのが、会津美里町にある向羽黒山城跡ではないかといわれている。

無敵の「夜明け城」を築くことに悪かれた戦国小大名の悲願と挫折を描いた物語は、架空の小国が舞台、風雲急を告げる豊臣～徳川時代の史実をベースに綴られており、慶長6年の向羽黒山城の破城と時期を同じく「夜明け城」も城主と命運を共にしている。

向羽黒山城は日本最大級、阿賀川を足元に断崖絶壁の岩山が聳え立つ山城は天然の要害だ。事実、蘆名以降会津を支配した伊達・蒲生・上杉がそれぞれに侵入してもなく改修工事を行っていることから重要視されていたことがよく分かる。

手塚氏が会津を訪れ、東山温泉に投宿したのは昭和34年連載開始の5ヶ月ほど前。当時、氏のアシスタントをしていた会津出身の絵本作家・平田昭吾氏の談によると、蘆名一族に仕えた重臣を祖にする平田氏が、折に触れ向羽黒山城の話をしていたことがきっかけで手塚氏が会津に興味を抱いたのでは、と語っている。

来若した手塚氏が真っ先に向かったのは、“奥州仕置”で会津入りした豊臣秀吉が降り立ったという背負山の「関白平」。会津盆地を一望にするこの場所から急峻な向羽黒山城跡を望み、氏がどのような構想を抱いたのか非常に興味は尽きない。

(NPO法人会津マンガ文化研究会)
*「夜明け城」講談社刊・手塚治虫漫画全集MT50
©手塚プロダクション



よりみち
コラム

天海大僧正と蘆名氏
徳川3代の名宰相は会津美里町生まれ

天海大僧正生誕の地は、会津美里町の高田地区にあります。父は高田の土郷舟木氏で、母は蘆名氏と言われています。蘆名盛氏時代、天海は黒川城(後の鶴ヶ城)の稲荷曲輪(丸)の別当職の任にあり盛氏の信任は厚いものでした。蘆名氏が滅び、蘆名主従が落武者として常陸に逃れるとき、天海は甲冑に身を包み、行く先々で20代義広を護衛し、落ち延びたと伝わっています。

後に徳川家康に見出された天海は、徳川将軍家3代まで重用され、数々の輝かしい事績を残しました。
死後、朝廷より「慈眼大師」と諡号が贈られました。

窯の美里 いわたて

城主の館「巖館」から名付けられました。1Fが会津本郷陶磁器会館で、会津本郷焼組合の13窯元の共販所となっており、焼物の他、物産品も販売しています。

data
①F 営業時間／9:00～17:00
定休日／毎週水曜日
tel.0242-56-3007

本郷温泉 湯陶里

白鳳山公園の山裾にある河畔の日帰り温泉施設。食事処や休憩室も完備され、露天風呂からは会津磐梯山が一望でき、無料の足湯も好評です。

data
営業時間／9:00～21:00
※最終受付20:30まで
定休日／毎週水曜(祝日の場合は翌日)、年始
会津美里町字六日町甲4106-1 tel.0242-56-4364

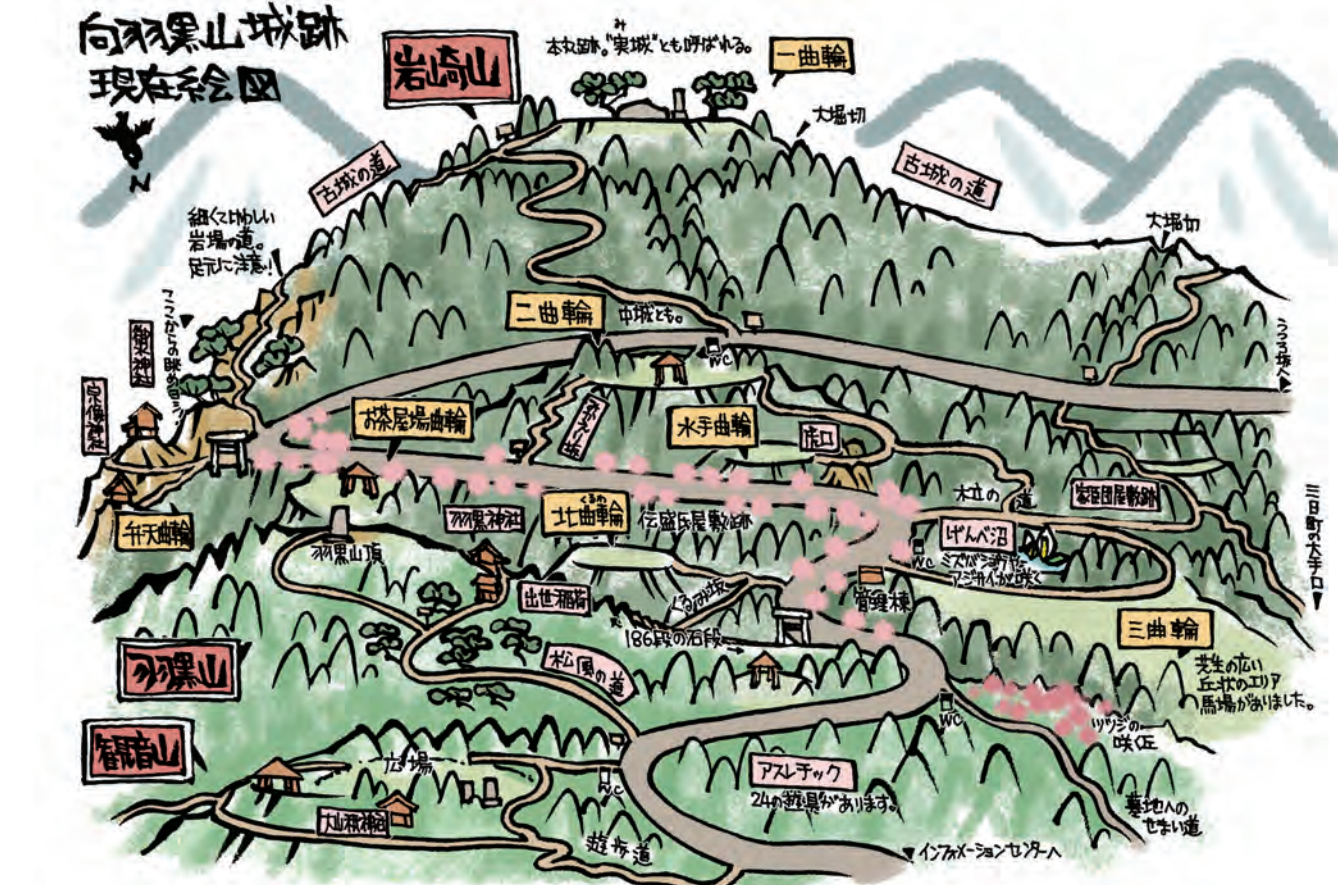


向羽黒山城跡

国指定史跡
縄日本百名城

NESUGI 1598-1601
GAMOU 1590-1598
DATE 1589-1590
ASHINA 1189-1589





■葦名の時代

蘆名氏は鎌倉期の名門三浦氏の一族で、相模国(神奈川県)衣笠城主三浦大介義明の子、佐原十郎左衛門尉義連がその祖とされます。義連は源頼朝の側近として仕え「奥州藤原氏征伐」等の軍功により、文治5年(1189)に会津北部を賜ったと伝わります。

その子盛連が相州芦名郷に住して蘆名氏を称したと言われますが、四男の三代光盛が宝治合戦(1247)以降に、その芦名郷を正式に与えられてから蘆名氏を名乗ったのが始まりとも言われています。

会津太守蘆名氏の本城は向羽黒山城 蘆名氏は当初鎌倉幕府の重鎮として活躍していましたが、徐々に恩給の地である陸奥国会津に勢力を扶植して拡大を図り、15～16世紀頃には奥州において最大の勢力を持つようになりました。

この蘆名氏的全盛期を築いたのが中興の英主16代盛氏です。盛氏は家督を継承すると、商人司の築田氏を重用し流通支配の強化を計るなど富国強兵の政策を基に、巧みな外交戦略と類希なる合戦の才能から、めきめきと英将の頭角を現し、現在の新潟県東部から福島県のほぼ全土を掌握し100万石の会津太守と称せられました。

永禄4年(1561)から永禄11年(1568)までの、あしかけ8年の歳月を費やし、会津地方の要衝の地(会津美里町本郷地区)に、会津太守蘆名氏の本城として巨大な向羽黒山城(岩崎城)を築城します。盛氏は、幼年であった嫡男の17代盛興を黒川(後の鶴ヶ城)城主とし、自分は隠居の身として「止止齋」を名乗り向羽黒山城に築城中より居住していましたが、実際は大御所として全権を握り采配を振っていました。向羽黒山城の蘆名氏本城説の所以はここにあります。

盛氏は永禄年間(1561)に甲斐の武田信玄と対等の盟約を結び、最大の激戦であった第4次「川中島の合戦」前後には、信玄の要請により越後の上杉領に派兵して度々の侵略を計っています。信玄は南奥州を席卷し強大な勢力を誇示する蘆名氏の力を充分認識していたようで、越後の上杉領に隣接する会津の盛氏とは何をしても同盟を結ぶ必要がありました。

この時期、南進策を取り中央に進出を計りたい盛氏は、北進策を取り奥州制覇をもくむ常陸国(茨城県)の雄、佐竹義重と県南において度重なる合戦を行っており、この佐竹氏を牽制する意味合いから小田原の北条氏とも同等の同盟関係を結んでいました。また隣国の米沢にいて南進策を計る伊達氏とも微妙な関係にありました。

戦国時代という権謀術数がはびこる時代性の中で、盛氏は当時最強と謳われた戦国大名との駆け引きにも劣らず、近隣においても比類無きその強さから「会津に蘆名あり」と天下にその名を轟かせておりました。

伊達政宗は蘆名盛氏と戦わなかったことが幸い 盛氏が天正8年(1580)に没して約9年後、伊達政宗により磐梯山麓の「磨上原合戦」において大敗を喫した蘆名氏は、400年を誇った会津支配に終止符を打たれてしまいます。

蘆名氏に勝利し奥州の覇者となった伊達政宗ですが、「蘆名盛氏と戦わなかったことが幸いであった」と言われており、盛氏の偉大

さが語り継がれています。

■国の指定史跡となる——大型バスが通行可能な巨大な山城

平成13年8月7日国指定史跡となった向羽黒山城の遺構の大きさは日本でも有数であり、上杉謙信の居城春日山城を凌ぐとも言われています。一曲輪(本丸)登り口まで、大型バスが通行可能で、山城の巨大さを実感できます。

■戦略上の要の城——隠居城にあらず

向羽黒山城の国史跡の部分は、東西約1.4km、南北1.5kmで会津若松鶴ヶ城の約2倍の面積を有しています。

古資料には、蘆名盛氏の隠居城として築城され、天正2年(1574)の嫡男盛興の死により、盛氏が政務のため黒川城に戻ると廃城になったという説も見受けられますが、天正2年以降も蘆名氏の重要な城として存続していることが、多くの資料に残されており歴史的見解として周知されています。

盛氏は、黒川城から直線で6km離れたこの向羽黒山城を、戦略上の「詰の城」(有事の際の本城)として、とらえていたと考えられています。向羽黒山城築城の理由としては、黒川城の弱点である側面の強化に向羽黒山城に求め、南の下野街道方面や西の越後街道方面から若松方面に侵入する敵に対し、黒川城や各支城と強力な連携を図り、挟撃等の戦術を駆使し敵を撃退するためとも言われています。最大限の備えを施し且つ多勢の機動力をも行使できる要所にあることから、専守防禦に適しながらも攻勢防禦に優れた山城でした。山城完成を祝した漢詩文「巖館銘」からは、軍事的なこの山に家臣団及び弓、槍隊など多数の集住が進むとともに、物資の補給に要する「工人集団」「商人集団」などの城下町形成が進んだことを窺うことができます。

西側の大手口には三日町、高田町があり、東側には黒川館の防衛や出撃の拠点としての「兵站基地」(外構え)があります。この「北原」方面には六日町や足軽弓隊が住んでいたと伝わる野伏町などの町並みが形成されており、その中心として本郷町があったと思われます。

また、数字の付く町においては「市」が定期的に開かれており、商人司の築田氏を重用した大きな経済政策が窺え、日本三大山城にも数えられる巨大な遺構からも、この向羽黒山城には現代の想像を超える戦略と城下町構想があった可能性が秘められています。

■上杉時代と向羽黒山城


蘆名氏が滅び、伊達氏そして蒲生氏が去り、会津領主が上杉景勝となった慶長年間(1596～)、時代は目まぐるしく変わり、徳川家康が政権を掌握すると、豊田派であった会津の上杉氏は風雲急を告げることになります。

関ヶ原合戦の直前に上杉景勝、直江兼統主従は向羽黒山城を会津防衛の拠点として整備、名実共に徳川勢を迎え撃つ「詰の城」に考えていたと言われ、上杉氏征伐に徳川軍が会津の地を踏めば、向羽黒山城は会津で最も重要な砦となりうる山城でした。



国重文 蘆名盛氏坐像
【瑞雲山 宗英寺蔵】

会津蘆名氏	会津統治400年間
文治五年(一一八九)	天正七年(一五八九)
盛高 一四八八 一五七〇	盛興 一四八八 一五七〇
盛信 一三八六 一四五一	盛久 一四八八 一五七〇
直盛 一四八八 一五七〇	詮盛 一四八八 一五七〇
泰盛 一四八八 一五七〇	盛宗 一四八八 一五七〇
義連 一四八八 一五七〇	盛連 一四八八 一五七〇
光盛 一四八八 一五七〇	光盛 一四八八 一五七〇

	伊達氏	政宗 ^{まさむね}	会津統治 1年間	天正17年(1589)～ 天正18年(1590)
	蒲生氏	郷 ^{うじさと} 氏 ^し 秀行 ^{ひでゆき}	会津統治 8年間	天正18年(1590)～ 慶長3年(1598)
	上杉氏	景勝 ^{かげかつ}	会津統治 3年間	慶長3年(1598)～ 慶長6年(1601)

蘆名氏と向羽黒山城にまつわる会津の歴史 会津支配400年蘆名氏を語らずに会津は語れない

1189	文治5年	佐原十郎左衛門尉義連(葦名氏先祖)が源頼朝より会津四郡を賜る。
1354	文和3年	黒川小高木館を築く。小高木を後世小田垣に改める。
1379	康暦元年	蘆名7代直盛鎌倉より下向し幕内館(飯寺館か)に居住する。
1382	永徳2年	直盛、小館(西館)に移る。
1384	至徳元年	直盛、東黒川館(小高木館、後の黒川城・鶴ヶ城)へと移る。
1467	応仁元年	応仁の乱はじまる。蘆名氏13代盛高時代。
1521	大永元年	蘆名16代盛氏生まれる。蘆名14代盛滋没。
1537	天文6年	盛氏が伊達頼宗の娘を娶る。
1546	天文15年	画僧「雪村周繼」が蘆名盛氏に「面軸巻舒法」を授ける。
1553	天文22年	蘆名15代盛舜没、嫡子盛氏立つ。
1559	永禄2年	京都の知恩寺三十世住持叡州上人が、盛氏に従五位下修理大夫の綸旨と足利義輝將軍から授けられた屋形号を持って会津に下向。
1560	永禄3年	蘆名家老・金上盛備が正親町天皇と足利將軍に御礼言上のため上洛。
1561	永禄4年	盛氏の庶兄氏方が謀反、鎮圧される。 向羽黒山城築城開始、盛氏この年春より居住する。
1563	永禄6年	盛氏、甲斐の武田晴信(信玄)・相模の北条氏康らと対等の盟約を結ぶ。
1566	永禄9年	盛氏、盛興親子仙道(現在の福島県中通り地方)より凱旋する。
1568	永禄11年	あしかけ8年をかけ向羽黒山城(岩崎城・巖館)が完成する。巨大な山城完成の祝いとして勝常寺の僧覺成が漢詩文「巖館銘」を詠む。
1573	天正元年	盛氏は白河に出征し常陸の佐竹義重を破り、上杉謙信がその勝利を祝福する。
1574	天正2年	蘆名氏17代盛興没。父盛氏岩崎より黒川(若松)に帰り再び政を聴く。盛氏、須賀川の二階堂盛隆を養子とし故盛興の室に配する。
1578	天正6年	上杉謙信没。上杉景勝と景虎の戦い(御館の乱)となり、盛氏は当初景虎側につき、後に景勝に味方する。信濃守護小笠原長時會津に来て盛氏を頼る(盛氏の軍師となる)。
1580	天正8年	60歳で盛氏没。小田山にて戦国大名にふさわしい葬礼が執り行われる。
1589	天正17年	伊達政宗と「磨上原の合戦」で会津支配400年を誇る蘆名家が滅亡する。蘆名家20代広常降へ落ちる。後に兄佐竹氏の客将として秋田県角館を支配する。
1590	天正18年	伊達政宗、黒川にて正月行事を行う。三日には風雪をついで軍事訓練を向羽黒山城下で行う。 蒲生氏郷、会津・仙道の地に封ぜられ黒川城を賜る。
1590～1598	蒲生氏郷時代	向羽黒山城改修の痕跡が見られる。
1598～1601	上杉景勝時代	向羽黒山城改修の痕跡が見られる。
1601	慶長6年	上杉景勝が会津から米沢へ移封となり、向羽黒山城が破城となる。

※年表については諸説あり

国指定史跡 向羽黒山城跡整備資料室

中世の会津や向羽黒山城に関する資料を中心に集めた資料館で、現在、資料の電子化を進めています。発掘調査出土品パネルの展示ほか、750分の1スケールで再現された日本最大級の向羽黒山城の縮尺模型は必見。その他、会津領主蘆名氏に関する資料展示や、会津本郷焼の歴史も紹介しています。

開館日
4月中旬～11月の
毎週土・日曜
10:00～14:00
*その他観覧については
要問合せ

問 / 会津美里町観光協会 ☎0242-56-4882

向羽黒ギャラリー